

2013年6月16日(日)

アルゼンチン映画の秘宮
New Century New Cinema presents Cine Argentino vol.2

アカデミー賞や映画祭受賞作以外は日本に知られることはまるでないが、今世界で最も注目される国の一つ、アルゼンチンは伝統ある南米の映画大国である。ジョン・アルトンやグレッグ・トーランドの弟子たちによる光と影の撮影、ラロ・シフリンやガトー・バルビエリらを輩出した Jazzy な音楽、時にボルヘスやコルタサルらも加わった文学的伝統を背景に持つ脚本……ヒューゴ・フレゴネーズからリサンドロ・アロンソまでを送り出したその歴史を見直してみると、軍政時代の暗い記憶やタンゴからくる一般的イメージを離れて、この映像的時代にダイレクトでリンクする同時代性を持った作品たちが見えてくる。このシリーズではそんなアルゼンチン映画の「陰の流れ」を追ってみる。

赤坂太輔(映画批評家)

第2回

15:30-上映

Los venerables todos ※邦題未定

1963年(85分)

監督・脚本:マヌエル・アンティン

出演:Lautaro Murúa、Fernanda Mistral、Walter Vidarte、Leonardo Favio

17:00-講演 ※入場自由

赤坂太輔(映画批評家)

1965年生まれ。ウェブサイト&シネクラブ「New Century New Cinema」主宰。「マノエル・デ・オリヴェイラと現代ポルトガル映画」(E/M ブックス)企画・執筆。近年は、イギリスの Sight & Sound、イタリアの La Furia Umana、ペルーの Desisitfilm、スペインの elumiere、中央評論、nobody 等に寄稿。2008年より立教大学講師。

18:30-上映

『敬われるべき全ての人々』Los venerables todos 1963年 (73分)

■上映作品は日本語字幕付き(デジタル上映)

■料金

一般=1回券1,200円/2回券2,200円

アテネ・フランセ文化センター会員=1,000円

■会場

映画美学校試写室

東京都渋谷区円山町1-5

KINOHAUS 地下1階

■主催

New Century New Cinema、アテネ・フランセ文化センター

■後援(予定)

在日アルゼンチン共和国大使館

■協力

マヌエル・アンティン、映画美学校

